

口述発表1 5/12 10:30～11:30 アクティシティ浜松コンgresセンター 21会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O1-1	終末期癌の利用者に対する絵手紙展開催に向けた生活環境支援	環境支援 QOL 終末期	井原市立井原市民病院 佐野裕和
O1-2	ADOCとCOPMの併用により終末期がん対象者の作業機能障害が改善した事例	緩和ケア COPM ADOC	船橋二和病院 吉田尚樹
O1-3	協働により望む生活の再獲得に至った一事例 ～がんと共存するA氏との関わり～	がん 協働 意思決定	一般財団法人 太田綜合病院附属 太田西ノ内病院 宗像暁美
O1-4	協働関係の構築が主体的参加と作業の可能化に至った事例 ～OTIPMに基づく実践を通して～	協働 OTIPM	市立御前崎総合病院 山元めい

口述発表2 5/12 10:30～11:30 アクティシティ浜松コンgresセンター 44会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O2-1	活動の質評価法(A-QOA)の開発 —ラッシュモデルを用いた構成概念妥当性の検討と評価得点の定量化の試み—	活動の質評価法 構成概念妥当性 定量化	京都大学 小川真寛
O2-2	作業バランス別にみた家族の介護負担に関する研究 ～動機づけ分類に着目して～	脳卒中 作業バランス 介護負担	誠馨会 セコメディック病院 桑島直紀
O2-3	脳損傷者の自動車運転適性と精神医学的症状の関連の検討	脳損傷,自動車運転, Neuropsychiatric Inventory	医療法人 誠和会 倉敷記念病院 リハビリテーション科 中原成美
O2-4	自閉症スペクトラム児と定型発達児における, じゃんけんのような 3すくみの関係の学習時の行動上の違いとその原因の追及	自閉症 連合学習 実行機能	医療法人純正会 名古屋西病院 東北大学大学院医学系研究科 埴杉子

口述発表3 5/12 10:30～11:30 アクティシティ浜松コンgresセンター 22・23会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O3-1	作業歴に焦点を当てた介入 ～自己効力感の向上が得られた事例～	社会参加 自己効力感 作業歴	医療法人社団緑野会 みどり野リハビリテーション病院 小野聡一郎
O3-2	「お父さんのケーキがもう一度食べたい」 ～事例のアイデンティティに焦点を当てた介入～	料理 意味ある作業	医療法人社団緑野会 みどり野リハビリテーション病院 佐藤凌
O3-3	趣味活動の置き換えにより活動意欲,労働意欲の向上が見られた一事例	活動意欲 労働意欲 継続できる趣味活動	杉野脳神経外科病院 深山浩志
O3-4	日々のルーチンワークが意味ある作業へと変わった事例 ～継続することが自己効力感UPへとつながった～	信頼関係 関わり方	えんしゅう生活支援net ワークセンターふたば 鈴木麻美

口述発表4 5/12 10:30～11:30 アクティシティ浜松コンgresセンター 41会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O4-1	課題指向型アプローチ実施時の報酬系の賦活に関する検討	課題指向型 アプローチ, シェイピング, 報酬系	医療法人和光会 山田病院 立岩慧士
O4-2	ShapingとTask practice実施時の報酬系の賦活の特徴	課題指向型 アプローチ, shaping, task practice	医療法人和光会 山田病院 久納健太
O4-3	通所リハビリテーションにおいてBTX-A投与後に修正CI療法を実施した一例	通所ハ CI療法 目標設定	名古屋市総合リハビリテーション センター 介護保険科 小林直樹
O4-4	「今はできない」から「できるかも」へ ～課題指向型アプローチにより行動変容を認め,調理動作が可能となった事例～	脳卒中 行動変容 上肢機能	江東リハビリテーション病院 市村悠太

口述発表5 5/12 13:00～14:00 アクティシティ浜松コンgresセンター 22・23会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O5-1	入院中に「意味のある作業」の実践が退院後の生活に与える影響	意味のある作業 退院後の生活 自己効力感	岐阜清流病院 リハビリテーション療法課 継石祥平
O5-2	OFPを基盤とした介入により意味ある作業の再開予測が立てられた事例	意味のある作業 高齢者 仕事	公立森町病院 大石佳海
O5-3	大切な作業の焦点化と多職種連携にMTDLPを活用した事例	MTDLP 多職種連携 合意目標	医療法人社団仁明会 齋藤病院 三浦慶司
O5-4	作業文脈を意識した介入方法が行動変容を導いた一症例	高次脳機能障害 行動変容 作業療法	公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院 三阪ナナ

口述発表6 5/12 13:00～14:00 アクティシティ浜松コンgresセンター 44会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O6-1	CAODとSTODを評価した際に認められた主観的認識の差から、介入を構造化した事により作業機能障害の改善が得られた症例	作業機能障害 回復期リハ	医療法人翔陽会 滝川脳神経外科病院 長谷川幸
O6-2	新人作業療法士が作業に根ざした実践2.0を理論的基盤として介入する有効性 —精神科領域で面接に焦点を当てた一事例—	作業療法理論 精神科作業療法 面接	医療法人重仁会大谷地病院 金平航
O6-3	脳血管障害患者の家族における精神的QOLと 作業機能障害の関連と要因について	脳血管障害 家族 作業機能障害	済生会東神奈川 リハビリテーション病院 田原正俊
O6-4	視床背内側核梗塞による人格・情動変化に対して 作業機能障害に着目し介入した一事例	人格変化 視床背内側核 作業機能障害	医療法人社団誠馨会 セコメディック病院 塩田将

口述発表7 5/12 13:00～14:00 アクティシティ浜松コンgresセンター 21会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O7-1	夫を巻き込み、主婦役割が獲得され生活構築への主体性が 引き出された作業療法 —MTDLPを用いて—	MTDLP 家族	金沢脳神経外科病院 志村香
O7-2	「人間としての尊厳を保ってほしい」との夫の思いを尊重し、 役割再獲得を目指した事例	役割 家族支援 脳血管障害	金沢脳神経外科病院 坂井由衣
O7-3	通所リハビリテーションにおいて自己管理者という役割が 生活の場を作り出した事例	高齢者 役割 通所リハビリ	介護老人保健施設グリーンヒルズ 佐々木海
O7-4	短期入院における役割獲得に向けた介入	脳卒中 役割	北原リハビリテーション病院 加藤由衣

口述発表8 5/12 13:00～14:00 アクティシティ浜松コンgresセンター 41会議室

演題番号	演題テーマ	キーワード	所属 筆頭演者
O8-1	脳卒中後上肢麻痺及び失語症合併例に対して、 ADOC-Hを用いた簡易版Transfer Packageを使用した事例の経過報告	ADOC-H TP CI療法	川崎協同病院 高瀬駿
O8-2	日常における手の使用時間調査票(仮)の試作版作成	尺度開発 ハンドセラピー 上肢使用頻度	獨協医科大学日光医療センター 須藤誠
O8-3	脳卒中片麻痺患者を対象とした加速度計(Actigraph GT9X)による 上肢活動量計測の試み —3点計測法の妥当性の検討	脳血管障害 日常生活 行動評価	村田病院リハビリテーション部 山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 花田恵介
O8-4	基節骨骨折に対するスプリント療法の経験 ～家事動作の獲得を目指して～	参加 調理 スプリント	江東リハビリテーション病院 松本康伸